

2022 年度「深田賞」受賞者 顕彰理由

岩松 暉（いわまつ あきら）

（1938 年 8 月 26 日生まれ，84 歳）

1963 年 東京大学理学部地学科卒業

1970 年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）

1970 年 新潟大学理学部付属地盤災害研究施設助手

1976 年 鹿児島大学理学部地学科助教授

1988 年 同教授

2004 年 鹿児島大学名誉教授

岩松暉氏は、新潟大学理学部付属地盤災害研究施設と鹿児島大学理学部にて長年にわたり、研究・教育を行い、鹿児島大学では国で唯一の応用地質学講座を牽引し、数多くの学生を育成した。当時の応用地質学は鉱床学と同義に近かったが、岩松氏は、土木や環境に対する地質学の重要性を強く認識し、この面での研究・教育を推し進めた。また、アカデミズムの象牙の塔に籠ることを良しとせず、研究成果を積極的に社会に発信するとともに、多くの人が利用できる形に具現しようと努力してきた。

岩松氏は、情報発信の重要性にいち早く着目し、インターネットの普及が始まる頃には、調査情報や研究成果などの膨大な応用地質学に関する情報をウェブ発信し、教育・普及に努めた。それは、「かだいおうち **Advanced Course**」として綿々と続いている。

岩松氏は、地質学は社会に貢献すべきである、という信念のもと、大学での教育・研究とともに、国ならびに地方公共団体において、多くの委員会の委員長・委員を務めた。そして、建設や災害対応にあって、地質学がいかに有用であることを示した。

同氏は、学界の中で、日本応用地質学会の理事・評議員・支部長、九州応用地質学会会長などを歴任するとともに、関連分野である日本情報地質学会会長や、日本学術会議会員を歴任するなど、応用地質学と関連する諸分野との学術的な橋渡しの基礎を作り、社会のための地質学の確立に向けて尽力した。応用を目指した科学に対する理解が十分とは言えない環境の中で、その活躍は獅子奮迅であったとも言える。

同氏の社会貢献の中で、鹿児島大学退職後に、NPO 法人地質情報整備・活用機構を立ち上げ、地質地盤情報の公開への道筋をつけたことは特筆される。この機構の活動は、現在の一般財団法人国土地盤情報センターの設立につながるものである。

岩松氏は、子供の教育、地学リテラシー向上、地方活性化に強い思いを持ち、そのために、世界ジオパーク構想の開始段階から情報収集や関連機関、マスメディア、地方自治体などへの働きかけを続けた。その結果、日本のジオパーク制度の基礎が構築されたといっても過言ではない。

このように、岩松氏の応用地質、さらには複合的地球システム及びその社会とのかかわり

に関する貢献は極めて高く評価されるものであり、岩松暉氏が深田賞を贈るにふさわしい
功労者であると認め、ここに顕彰する。

2022 年 9 月 30 日

公益財団法人 深田地質研究所

理事長 千木良 雅弘